

コード	502010201
記入日	H23.6.10

課コード	125
課名	生涯学習課
課長名	西川 義男
担当者	高木 和枝

事務事業途中評価表

作成年度	平成 23 年度
------	----------

評価対象事業名称	移動図書館車活用事業
----------	------------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 - 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	5	政策名称	しまの誇り・文化の育成	款コード	10
施策コード	502	施策名称	生涯学習の充実	項コード	5
基本事業コード	50201	基本事業名称	生涯学習機会の拡大	目コード	3
事務事業コード	5020102	事務事業名称	読書活動の推進	細目コード	102
関連計画	法令・条例規則等		新上五島町図書館条例施行規則		

計画 (PLAN)

※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象：誰、何を対象しているのか	対象指標：対象の大きさを表す指標					
(対象1) 住民	(対象指標1) 23,210人 (H22.4.1現在)					
(対象2)	(対象指標2)					
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入	活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段：全体、下段：評価年度)					
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠) (目標達成年度)	
*****	・図書館(中央図書館「くりくら号」「よめーる号」、奈良尾図書館「やまびこ2号」)から遠い地区を重点に巡回し、読書の普及を図る。 →移動図書館車 3台 →年間巡回回数 145日 →年間貸出冊数 24,175冊	*****	*****	*****	*****	
		巡回回数	145日	88.4%	巡回回数145日+計画した巡回回数164日	平成22年度
		① (達成率分析)	悪天候、蔵書点検等により、実施できなかった日があり達成できなかった。			
		② (達成率分析)				
目的：何をしたいのか	成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率 (上段：全体、下段：評価年度)					
		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠) (目標達成年度)	
		*****	*****	*****	*****	
		貸出冊数	24,175冊	100.8%	貸出冊数24,175冊+計画した貸出冊数23,972冊	平成22年度
		① (達成率分析)	1回に1人で借りる冊数が増加したことにより達成できた。			
		② (達成率分析)	利用者数4,237人+計画した利用者数4,500人			平成22年度
		利用者数	4,237人	94.1%	利用者数4,237人	平成22年度
		② (達成率分析)	少子高齢化等による人口減及び利用者の固定化があると考えられる。			

実施 (DO)

※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		21年度以前	22年度		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画
活動指標	① 日	780	761	616	164	145					
	②										
成果指標	① 冊	144,474	144,677	120,502	23,972	24,175					
	② 人	27,778	27,515	23,278	4,500	4,237					
総事業費 C (A+B)	千円	13,414	13,297	12,060	1,354	1,237					
直接事業費 A	千円	9,214	9,097	8,560	654	537					
人件費 B	千円	4,200	4,200	3,500	700	700					
内訳	従事職員数	人	0.6	0.6	0.5	0.1	0.1				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	13,414	13,297	12,060	1,354	1,237					

評価

※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	・町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	読書活動の推進や地域間の格差是正のために、必要な事業である。
	・時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	図書館の整備環境を考慮すると、利用者の利便性の確保や地域間の格差是正のためには必要である。
	・事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	読書活動の推進と利用者の利便性の確保であり、適切である。
有効性	・現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	住民がいつでも、どこでも、だれでも本を貸出しができる環境ができた。
	・成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	巡回の日数を増やしたり、貸出し条件を増やすことにより向上する余地がある。
	・事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	住民への読書活動推進と読書環境の提供が行われず、潤いのある住んで良かったと感じられる町づくりができない。
	・類似事業との整理統合はできませんか。	●できる ●できない	理由	読書活動推進の柱として実施しているため、類似事業との整理統合はできない。
効率性	・直接事業費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	活動を行うための必要な部分を計上しているため、これ以上の削減はできない。
	・人件費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	限られた人件費の中で効率を上げるよう努力を図っているため、これ以上の削減はできない。
	・受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由	現時点では、受益者負担は発生しない。

改善

改善策	1次評価	妥当性	現在のところ計画を見直す必要はない。
		有効性	巡回の日数を増やすことにより、有効性を上げることができる。
		効率性	現在のところ計画を見直す必要はない。
		課題に向けた改善策	特になし。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり。
		有効性	現在の体制で図書館車の活用状況に対し、住民の利便性が確保されているのであれば現行のまま事業を実施する。
		効率性	図書館車の活用においては事故等がないよう努めるとともに、維持・管理経費の執行については適正に行うこと。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次	
	●	●		このまま事業を継続
				事業内容を見直して事業を継続
				事業費を見直して事業を継続
	1次	2次	3次	
				類似事業と整理統合
				事業の休止
				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。